

平成 22 年度 森林総合研究所北海道支所 研究評議会報告

開催場所：森林総合研究所北海道支所 大会議室

開催日時：平成 23 年 3 月 4 日（金）14：00～17：00

評議会委員：内田 敏博 委員（北海道森林管理局計画部長）

笹 賀一郎 委員（北大北方生物圏フィールド科学センター教授）

深沢 博 委員（朝日新聞根室支局長、欠席）

北海道支所 出席者：支所長、研究調整監、地域研究監、研究グループ長（5）

研究チーム長（4）、庶務課長、課長補佐、連絡調整室長

北海道育種場出席者：場長、育種課長、遺伝資源管理課長

開会の挨拶に続き北海道支所から、主な活動報告として 1) 研究組織運営・予算の状況 2) 支所の研究課題推進状況 3) 支所の広報活動について説明を行った。質疑応答につづいて、昨年の指摘事項と対応方針について説明した。主要研究取組状況報告では「航空機 LIDER による羊ヶ丘実験林の全域継続調査」（支所内プロ）について担当者から発表、説明した。この後、北海道育種場からの平成 22 年度の林木育種事業と研究の概要についての説明が行われた。これらの説明のあと評議会委員から以下のような質問や意見が出された。

指摘事項 1

数々の有益な成果、実用的な技術を出してもらっていると感じた。森林林業再生プランで生産性を上げる研究も必要だが、北海道では保護林の設定等に関して、生物多様性保全などの指針も重要になってくる。その方面の研究もぜひ進めてほしい。北海道人工林に関しては、4 齢級以下の蓄積があまりにも少ない現状を意識して、将来を見据えて造林関係の研究にも期待する。

指摘事項 2

支所研究成果発表会や国有林との協議会設置など、積極的に活動を進めてることを高く評価する。さらに付け加えれば、支所の PR にはホームページの充実が最適である。支所として数々の広報活動を行っているが、ホームページを頻繁に更新することをこころがけ、単なる広報紹介ではなく、一般市民が知識を拾い上げられるような情報として、研究成果の普及に努めることを期待する。